

2020年9月1日



特定非営利活動法人
血液情報広場・つばさ

162 - 0041 東京都新宿区早稲田鶴町 533
早稲田大学前郵便局々留

03-3207-8503 (月～金 12時～17時)
03-3203-2570 (Fax)

厚生労働大臣
加藤勝信様
厚生労働省医政局長
迫井正深様

薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について(令和2年8月26日)におきまして、薬価基準医薬品コード 4291011F1010 はメーカー名が記載されておられません。

- ① 現在のメーカー名無記載の理由をお知らせください。
 - ② 服用する患者が自身にもっとも合った薬を選ぶために、メーカー名の記載をお願いします。
- 以下に、お願いに至る経緯と理由を述べさせていただきます。

拝啓、

貴職の様々なご尽力に心より感謝申し上げます。

私共 NPO 法人血液情報広場・つばさは、1994年より、血液がん・非がん血液疾患・小児血液腫瘍の患者支援を行ってまいりました。本法人の活動目的は、医・薬についての今日的な情報を当事者向けに発信し、同時に、血液疾患の患者がいまどのような不安や疑問を抱えているかを「当事者の声」として医・薬向けに発信しております。

ご承知の通り、がん領域の治療成績は 1990年代から徐々に向上してきました。いまやがんは致死的な病ではなく「長くつき合う合う病気」へと変わっております。さらに 2001年には血液がんのひとつである慢性骨髄性白血病に対する分子標的薬が登場して、薬を服用していれば「がんでも働き続けられる」時代を迎えました。これは本当に素晴らしいことです。

しかし一方で、登場した分子標的薬が非常に高いことが患者さんにとって大きな負担となっていました。「がんでも働き続けられる」と同時に「働かなければ薬代が払えない」当事者がたくさん派生することになりました。そこで本法人は、2010年より4年半、つばさ支援基金を発足・運営して治療費が払えない当事者の経済支援を続けました。

やがて、最初に出された分子標的薬の特許期間が終わり、ジェネリックが造られました。ようやく、希望すれば、生涯飲み続けるべき薬が廉価に得られるようになった次第です。しかし、出されて来た分子標的薬のジェネリックは、その値段によって、高額療養費制度を使うと先行薬と

変わらない設定になっておりました。これではジェネリックの意味合いを成さない、と私共と同じく多くの人が感じたと思います。同時に、ジェネリック薬に対しては「がん治療薬としての効果に疑問」「副作用が先行薬より酷いのでは？」という理由のない不安感があることは、関係する当事者の方々から聞き及んでおりました。これでは、せっかくのジェネリックがどれだけ患者さんの役に立つのだろうか、と思いました。

そこに届いたのが、「ジェネリックに対する患者さんの不安を解消して、製造を企画したい」として、大原薬品工業から木村晋也先生（佐賀大学医学部附属病院血液内科）に研究協力が要請され、可能な限りの「効果検証」が行われたという報せでした（別添、本法人 Newsletter ひろば 1712 号 28 ページ）。同時に前述の「ジェネリック薬でありながら、実際に購入すると高額療養費制度の範囲に収まってしまい、先行薬と変わらない」ことも検討対象にされたとのこと。その結果、大原薬品工業のジェネリックは可能な限り安く抑えられて発売されたのです。この努力を私達は心より歓迎し、それからは当事者がジェネリックを服用して元気にしている様子も伝えるなどして（三鍋康彦さん、Newsletter ひろば 1912 号 36 ページ）、医・薬の尽力が患者さん達の人生を支えていることを、感謝もしつつ、たいせつな情報として発信してきました。

しかし 2020 年になりまして、三鍋康彦さんより、「私が服用しているオーハラジェネリックが、『厚生労働省の薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報についてのリスト』で特異な扱いになっているようです」というお手紙をいただきました。そこで、以前より慢性骨髄性白血病の疾患や治療の理解についてご指導いただいている佐賀大学の木村先生にご相談したところ、「これでは、患者さんの負担が軽減できる機会を逸するのではないかと危惧」というご返事をいただきました（Newsletter ひろば 2008 号 24 ページ）

以上が、この度の問い合わせに至るまでの経緯と要旨となります。三鍋さんからのお手紙、木村先生のお返事をもとに私共 NPO 法人血液情報広場・つばさとして、上記質問をさせていただく次第です。

何卒宜しくご回答のほど、お願い申し上げます。

NPO 法人血液情報広場・つばさ 理事長 橋本明子 hashimoto@tsubasa-npo.org

添付資料 1. Newsletter ひろば 1712 号
2. Newsletter ひろば 1912 号
3. Newsletter ひろば 2008 号